

鶴岡市立荘内病院広報

2021夏 第38号

黎明

※黎明(れいめい)：明け方、夜明けの意

特集：災害に備える

—東日本大震災から10年、当院の防災の取り組みを紹介します—



院長と副院長兼看護部長、今年度新規採用職員

ピンチこそ次のチャンスへ

病院事業管理者 八木 実

4月1日付で着任しました。
よろしくお願いたします。



荘内病院は平成5年3月以来、28年ぶりです。この間、日本は世界の潮流の中で大きく変わってきました。今まで私は、国立大学病院、私立医科大学病院、県立病院、赤十字病院、済生会病院、JA病院、市立病院、メガ私立病院などに転勤し、今日に至りました。これらの転勤を通じて言えることは、設立母体によって運営の様式にそれぞれ特徴があり、それに則ってまずは慣れることで、完全に習慣化する前に時勢や社会構造の変革に乗り遅れないよう、舵を切るべきだと思います。

昨今、ICT(情報通信技術)の普及により時間の流れが加速され、一昔前の10年間で現在では数か月から1年分程度に相当するようになってきています。そこで言えることは、今までこうしてきたからこのままで良いというのではなく、今までは今までとして、これからは前例にとらわれることなく全く異なる発想で、対応を迫られていると思います。まして、現在のようなコロナ禍で物事が停滞しがちな今だからこそ、職員同士協力し力を蓄え、荘内病院の発展に向け尽力していきたいと思えます。

災害に備える

—東日本大震災から10年、当院の防災の取組みを紹介します—

あの惨禍から10年

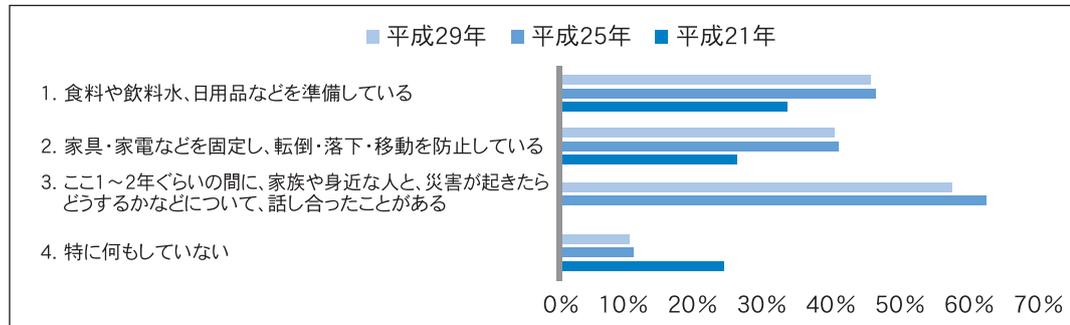
平成23年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130キロメートルを震源とし、東北地方太平洋沖地震が発生しました。マグニチュード9.0、最大震度は7にも及び、東日本各地で大きな揺れ、併せて大津波や火災等が発生、東北地方を中心とする12都道県で1万5900人が犠牲となりました（令和3年3月9日現在）。

あの惨禍から10年、お亡くなりになられた方々のご冥福を改めてお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に、心よりお悔やみ申し上げます。

防災意識の変化

東日本大震災の前後で、住民の地震に対する防災意識はどのように変化したのでしょうか。下の図をご覧ください。

この図は、内閣府により平成21、25、29年に行われた防災に関する（特別）世論調査を一部抜粋し、数値の変化を示したものです。はじめに、震災前後の変化として、平成21年と平成25年の数値を比較すると、各項目において5



〔出典：内閣府政府広報室「防災に関する（特別）世論調査」をもとに当院作成〕

※項目1は、平成25年及び21年調査では「食料や飲料水を準備している」となっている。
 ※項目2は、平成21年調査では「家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している」となっている。
 ※項目3は、平成21年調査では項目として存在していない。
 ※項目4は、平成21年調査では「特に対策は取っていない」となっている。

15%程度の改善が見られます。次に、震災2年後から6年後の数値を比較すると、項目3以外の数値を比較しますが、項目3に至っては5%程度減少しています。

当院の災害対策

とりわけ最近ではコロナ禍で、地震対策をはじめとする防災意識は薄れつつあるのではないのでしょうか。このようなときだからこそ、予期せぬ災害に備え、抜かりなく対策を取る必要があります。そこで今回は、当院の防災の取組みについてご紹介します。非常時も安心してご利用いただけることをご理解いただくとともに、防災の意義について今一度思いを致す機会となれば幸いです。

平成12年3月、当院は山形県から災害拠点病院の指定を受けました。災害拠点病院とは、平成7年に発生した阪神・淡路大震災の教訓をもとに全国的に設置されたもので、「地震等の災害発生時に重症者の受入れや搬送等を行い、地域の災害医療の一端を担う病院」のことです。

災害が発生した状況下でも、普段と変わらぬ切れ目のない医療を提供していく必要があります。

当院では、災害拠点病院の指定要件に基づき、災害対策を講じています。次のページでは、その主なものをご紹介します。

BCPの策定

BCPとは、「事業継続計画」の略で、大規模災害のような緊急事態が生じて、損害を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするため、その方法を事前に定めておくものです。

大地震のような災害が発生すると、傷病者が急増し、また、施設に損壊が発生する場合も想定されます。こうした状況下においても、通常の診療体制を継続するとともに、迅速に災害医療体制へ移行していく必要があります。

平成31年3月、当院でも本計画を策定しており、災害発生時に求められる役割を果たしていけるよう、着実に遂行していきます。

ライフラインの確保

災害の発生によりライフラインが停止した状況下でも病院機能を維持できるように、当院では主に次の対策を取っています。

☑ 食料、医薬品等の備蓄

流通を通じて適切に供給されるまでに必要な量として、食料は約3日分、医薬品等は7日分以上を院内に備蓄しています。

☑ 自家発電装置の設置

電力供給が停止しても、本装置の利用により、災害時に必要な電力を供給できます。

☑ 井戸水飲料化システムの整備

令和3年3月、浄水装置を通して、地下水を飲料化できるまでろ過するシステムを整備しました。災害により断水しても、病院機能を維持するための水を継続的に確保できます。



地震総合訓練の実施

災害対策本部の設置やトリアージ（※）の実施、診察・入院の受け入れ等、実際に診療圏内において地震が発生した状況を想定し、毎年1回地震総合訓練を実施しています。



（※）疾病者の緊急度・重症度に応じて救急措置、治療すること

DMATの組織

DMATとは、「災害派遣医療チーム」の略で、大規模災害や多傷病者が発生した事故現場などで、急性期（おおむね48時間以内）から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのことです。

平成25年3月、当院は山形DMAT指定病院の指定を受け、現在医師3名、看護師5名、その他の医療職3名によりDMATを組織しています。各種訓練や研修に参加し、災害直後の初動体制や災害現場における対応等を体得することで、非常に備えています。

ヘリポートの設置

当院では、屋上にヘリポートを設置しています。

ヘリコプターによる重症疾病者の受け入れや、他医療機関への搬送を迅速に行える環境を整えることで、救急医療体制の充実を図るとともに、非常時においては医療物資等のピストン輸送にも対応できるように、体制を整えています。



「コロナ禍における対策

コロナ禍においても、大地震などの災害はいつ発生してもおかしくありません。

☑ 当院における対策

当院では、非常時においても「マスク着用・手指衛生・3密防止」などの感染対策が実践できるように、物品管理やマニュアルの作成を行っています。

☑ 皆さまへのお願い

山形県ホームページにおいて、「災害時における感染症対策」が公開されています。非常用持ち出し袋に以下のものを追加し、災害に備えましょう。

- ・マスク
 - ・手指衛生用品
 - ・体温計
 - ・タオル
 - ・防寒着
- （避難所ではこまめな換気が行われます。）

むすびこ

皆さまの生命と健康を守ることが、私たちの使命です。院内病院では、いざというときも変わらずその責務を果たせるよう、日ごろから備え、対策を講じてまいります。引き続き変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症への対応

当院では、最新の検査機器の導入や施設整備により、感染者の確認・陽性者の受入れを迅速かつ正確・安全に行っています。

- PCR等の院内検査数(令和2年2月1日～令和3年5月31日)
3,146件(197件/月)
- 入院棟・救急外来への陰圧室の設置
室内の気圧を室外よりも低くすることで、ウイルス等で汚染された可能性のある空気を室外に逃さないようにしています。
- 陽性者の受入れ
県の重点医療機関として、多くの陽性者を受け入れました。

国立がん研究センター東病院との連携を継続

令和2年7月、国立がん研究センター東病院(以下、「東病院」と)と医療連携に関する協定を締結しました。1周年を記念し、8月28日に市民の皆さま向けの公開講座を開催します。詳細は当院ホームページで追ってお知らせしますので、皆さま是非ご参加ください。

- 東病院専門医による「がん相談外来」
28名の患者さんが利用されました。(令和3年6月4日現在)
- 遠隔診療の導入に向けて
令和3年9月を目途に、東病院に当院の電子カルテ端末を配置し、情報の共有を図ります。

3カ年運営計画(令和3～5年度)を策定

平成29年3月、中期経営計画(兼新公立病院改革プラン)を策定し、医療制度改革、診療報酬の改定、医師・看護師不足などの病院を取り巻く大きな環境の変化に対応し、自治体病院としての役割を担い続けていくため、経営改善を進めてきました。

中期経営計画の計画期間が令和3年3月末で終了したことから、引き続き、経営基盤の安定化と、より一層の地域医療の充実に取り組むため、具体的な取り組みと数値目標を掲げた「3カ年運営計画」を策定し、着実に推進していくものです。詳細は、当院ホームページをご覧ください。

漢方外来を開設

令和3年7月5日、漢方外来を開設します。
診察日は毎週月曜日です。

漢方は、身体に優しく副作用が少ないだけでなく、体質を変えることで病気になりにくい身体をつくるのが可能です。

- 対象疾患
体力低下、不眠症、神経症、冷え性、更年期、手足のほてり、アトピー、喘息、にきび、むくみ、神経痛、腰痛、関節炎、肥満、虚弱児、発達障害、夜尿症、がん治療での副作用例 など
- 担当医
八木 実(日本東洋医学会漢方専門医)

New Face

— 新しく赴任した医師を紹介します — ①診療科 ②出身地 ③趣味・特技



やぎ みのる
八木 実
①小児外科
②東京都渋谷区
③食べ歩き、磁器収集、
カラネット、テニス



ふじた すずく
藤田 英
①泌尿器科
②青森県五所川原市
③ドライブ、
スポーツ観戦



ひらの さちよ
平野 幸世
①眼科
②千葉県館山市
③ゴルフ



きくち ぜんしょう
菊地 善彰
①脳神経外科
②山形県鶴岡市
③車、ゲーム



わたなべ としはる
渡邊 敏治
①消化器科
②福島県大玉村
③バレーボール



くりはら かずき
栗原 一貴
①麻酔科
②群馬県前橋市
③クライミング



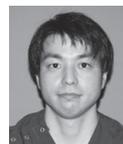
はが けんた
羽賀 健太
①歯科口腔外科
②新潟県三条市
③野球、海外ドラマ



なかだい まさと
中臺 雅人
①整形外科
②新潟県新発田市
③テニス



まえだ けいすけ
前田 圭祐
①整形外科
②新潟県新潟市
③サッカー、
スノーボード



よしだ けん
吉田 謙
①整形外科
②新潟県三条市
③サッカー



いりさわ たいき
入沢 大喜
①内科
②新潟県新潟市
③登山、ランニング



おおいわ とも
大岩 智
①外科
②和歌山県和歌山市
③ドライブ、園芸



ほしじま かずまさ
星島 一允
①整形外科
②兵庫県神戸市
③趣味: 読書、映画鑑賞
特技: 英語リスニング



きくち あきひろ
菊地 彰洋
①循環器科
②山形県米沢市
③晩酌



いしがき だいき
石垣 大輔
①循環器科
②山形県遊佐町
③音楽鑑賞、
楽器演奏(フルート)



さとう こういち
佐藤 紘一
①小児科
②山形県鶴岡市
③食べ歩き



ふかほり きょうこ
深堀 響子
①小児科
②東京都杉並区
③水泳



あかお ごう
赤尾 剛
①研修医
②山梨県甲府市
③フットサル、囲碁



おおた ゆうじ
太田 悠自
①研修医
②東京都目黒区
③山登り、
スノーボード



おかだ ひろき
岡田 伯末
①研修医
②東京都町田市
③温泉